

NSB、大学研究助成金減少を懸念（9月25日）

米国国立科学財団（National Science Foundation：NSF）の理事会である米国科学委員会（National Science Board：NSB）は9月25日、公立研究大学における研究資金や入学者数などの最近の傾向をまとめた報告書「減少する研究資金と増大する期待～公立研究大学の傾向と課題～（Diminishing Funding and Rising Expectations：Trends and Challenges for Public Research Universities）」を発表した。

本報告書によると、2002～2010年の間に、主要公立研究大学101校で学生1人あたりの州助成金が平均20%減少しており、コロラド州やロードアイランド州を含む10州においては、減少率が30～48%にも上ったという。

さらに州助成金の減少に加えて、大学入学者数が全国で約32万人増加したことも、学生一人当たりの助成金額減少の傾向に拍車をかけていることが指摘されている。

但し、ニューヨーク州とワイオミング州では同時期の州助成金はそれぞれ72%増、62%増で、その他7州においては現状が維持されていたものの、NSBは、州助成金が減少することで、公立研究大学における科学者・エンジニアに対する教育活動や、優秀な教授や学生の募集及び維持、質の高い研究の継続などが脅かされているとの懸念を示している。

なお、本報告書は<<http://www.nsf.gov/nsb/sei/companion2/>>よりダウンロード可能。

National Science Foundation, Science Board Concerned About Declines in Public Research University Funding

http://www.nsf.gov/news/news_summ.jsp?cntn_id=125542